

長野市立信里小学校 3・4 年生への感想

〔児童の皆様へ〕

- シナイモツゴの観察や飼育を通して、信里の環境について考えたり、絶滅危惧種を守るためにどうしたらよいか考えたりしていて、地域のための活動をしていることがよくわかった。また、飼育を通して命についても考えている場面があり、素敵な活動だなと感じた。
- はじめて飼ったシナイモツゴが死んでしまったときに、理由を考えたり、もっと自分たちができたことは無かったのか考えたりと、シナイモツゴの死としっかり向き合っていて感銘を受けました。また、シナイモツゴを守るために自分たちができることを具体的に考えられていて、探究の成果が出でいて素晴らしいと思いました。
- シナイモツゴの生態や生息環境をよく観察しながら、活動していたのがよくわかりました。活動の中で、調査、計画、実践、評価、改善の R-PDCA サイクルがみられました。小学生とは思えない内容のある発表だったと思います
- 長野県の膨大な自然、信里の里山を生かして行う活動はとても素晴らしいものだと思います。花、リンゴ、トンボなどをはじめとした絶滅危惧種シナイモツゴについてとても詳しく学ばれていてすごいと思いました。またシナイモツゴに対する思いを歌や詩にするなど、とても伝わってきました。なぜ？という疑問をきっかけに歴史を振り返ったりしていてとても実践的な学習になっていると思うのでこれからもさらに探求を深めて欲しいと思いました。
- どうやったら死なせずに飼うことが出来るのか、クリノストマムについて調べながらシナイモツゴを飼育することを通して、どのようにしたら里山からシナイモツゴを減らさないことが出来るのかを、考えていて凄いなと思いました。ここからは、生態系を守るための活動を行っていきと思いますが、頑張ってください。応援しています。
- シナイモツゴの稚魚を育てる過程の中で、成功体験だけを述べるのではなく、失敗してしまったことも話しているのがいいと思いました。生き物を飼う以上は悲しい体験もあると思うが、その体験を次に活かすことが大事だと思います。信里小の皆さんはそういった体験をしっかりと活かすことができていると思いました。あとはこの活動を自分たちの納得のいく形で終わることができるよう頑張ってください。応援しています。
- 生物の生態を話で聞くだけでなく、実際に飼うことでその生態をより深く理解できるし、命の大切さを実感することができるので、とても良い活動だと思います。小さな生き物にも人間と同じように命があるということを忘れずにこれからも探究活動を進めてほしいと思います。
- 発表内容も筋が通っていたり、発表するときもはきはきと発表出来ていたりしていたので、能力の高さや、学習意欲の高さがうかがえました。特に目立った反省すべき点も見当たらなかったのも、今後も様々な学習に対して、強い意欲や関心をもって取り組んでほしいと思います。

- ライチョウなどみんなが知っているような絶滅危惧種ではなくシナイモツゴにフォーカスしていて素晴らしいと思った。きれいなため池や里山にしていくという具体的な目標も見つけられていてその活動も頑張っしてほしいなと思った。
- 花壇づくりやリンゴづくり、シナイモツゴ学習といった様々な活動を、児童の皆さんが楽しそうに行っている様子が発表から伝わってきました。稚魚を大きく育てるために、様々な工夫を凝らしたり、その中で稚魚の変化を観察したりといった児童の皆さんの積極的な態度は素晴らしいと思いました。これからも様々な活動の中でたくさん発見をしてほしいと思います。
- 今回の発表を通して里山の大切さやシナイモツゴについて知ることができた。またシナイモツゴの学習を通してどうやったらシナイモツゴが生きることができるか考えたり細かく観察したりしていてすごいと思った。はきはきとした発表だったし、途中で発表された詩もその時の状況がとても伝わった。
- 地元の生き物に着目した発表で聞いていて楽しかった。声もはきはきして聞いて聞きやすかった。実際に生き物を育てるからこそ、「命」の大切さや尊さを身に染みて感じたと思うので、これからもその気持ちを忘れずに学習に対して貪欲に取り組んでほしいと思う。
- 地元の自然物や農作物の観察を行うこと非常に良い事だと感じる。数が減っている理由や、信里でシナイモツゴが残っている理由の考察までしっかりできていて素晴らしかったです。飼育に関する提案なのですがシナイモツゴを飼育だけでなく繁殖も挑戦するのはどうでしょうか
- 信里小学校で見ることのできるリンゴやトンボなどについて、わかりやすい絵と文字で説明されていて、とても聞きやすかった。シナイモツゴの生態などについては知らないことが多かったため、新しいことを知ることが出来て良かった。また、なぜ信里にシナイモツゴが生息しているのかを丁寧に詳しく説明していて理解しやすかった。
- 身の回りにあふれる自然から体験を通して得られる学びは本当に貴重なものだと思います。その中でも生き物を育てるという簡単ではないことをみんなで協力して行うことは大切です。シナイモツゴ学習のまとめがわかりやすく、しっかりと調べられていると思いました。発表も素晴らしかったです。
- 信里地区は周りにため池が多いという特性を生かしてため池に住む魚について調べようとしたことがすごいなと思いました。また、そこで見つけた魚の稚魚を実際に育てていたことで、本当に池に住む魚を大切にしていることが伝わってきました。どうしたら魚を守れるかについてしっかり考えられていてすごいなと思いました。

〔教職員の皆様へ〕

- ①共通点を見つける 今年度取り組んだ実践では、ICTの活用を選択肢の一つとして取り組んだ。子どもたちの姿から考えたとき、ICTの活用の良さに気がついている児童については、進んでICTを活用していた。ICTの活用は目的ではなく、あくまでも手

段であり、子ども自身の学習の目的を達成しようとするための有効な手段として、ICTの活用を選択している場面が非常に多かった。②指標を基準に議論するICTを目的ではなく、手段としての活用を子ども自身が選択しながら進めることができている。そして、そのためには紙と鉛筆を使った学習に親しんできた子どもたちが、1人一台端末の普及によって、自分の学び方を選択できる機会を得ることができ、紙と鉛筆とは異なるICTの活用の良さ、学びやすさを実感している子供が増えてきた。そのような子供たちが増えてきた時に、授業を構想する教師にできることは何かを考えたとき、学習の幅を私たち自身が狭めてはならないことは言うまでもない。これまでの「こうあるべき」という形を崩し、ICTの良さを頭に入れながら単元を構想していく必要がある。本授業の中でも、子供たちの学びの姿がさまざまに紹介されていたが、ICTの持つ良さを教師自身がまずは実感し、その良さを子供自身が味わっていくような活用の方法を考えていかなければならないと感じた。③多角的に捉えて自分との捉えとの違いを見つける 現場でICT活用の推進する立場として数年勤めてきた。ICT研修をしようとする、「また難しいことを…」「私にはわからない」「無理」と、研修を始める前からやや後ろ向きな声が聞こえたり、表情が見てとれたり、以前よりは活用が進んだものの、クラウドを活用した授業が全クラスで行われているまでには至っていない。ICT関係が好きで私にとって、新しい活用方法や実践を耳にすることはとても面白く感じるし、自分自身ではどのように活用できるか考えることも非常に楽しい。一方で、前向きになれない同僚の先生方を見ると、今後の教育に必須なものに対してどうして前向きになれないのかと言う疑問もある。先生方の背景を想像したとき、これまで積み重ねてきた経験とのギャップの大きさや、クラウドの基本知識の不足が要因に感じられるが、やはり大きなことはICT活用の良さを実感していないことも大きいことなのではないかと思う。いくら知識を外側から伝えようとしても、実践の場で活用するまでにはなかなか至らないし、研修の場だけでなく、授業の中で活用してこれまでと違う良さに触れてはじめて、次も使いたくなるだろう。これまではなかなかそんな先生方のフォローまで手が回らなかったが、今後は教師自身がICT活用の良さに触れられるように、共に考えていきたいと思う。シナイモツゴについての学習を通して、里山のシナイモツゴの重要性に気がついた子ども達でしたが、子どもたちの発表から私は2つの大きな学びがあったのだと感じました。一つ目は、自分たちの住んでいる自然豊かな里山に大きな愛着と誇りを感じることができたということです。絶滅危惧種の生き物が生息している環境というのは非常に稀で、それが自分たちの住んでいる里山であるということは非常に誇らしいことでもあります。二つ目は生き物の命の大事さです。シナイモツゴを飼うようになって、一度は死なせてしまった命を今度はどのようにしたら生き続けられるか、生息地を調査したり、モツゴの状態の変化を具に観察したり、子どもたちが命を大事にしている姿がとてもよく伝わってきました。自分たちの住む地域に誇りを持てる学習を展開されていることが素晴らしいと感じました。

- 地域の宝を認識し、実際に自分たちで育てることで様々な困難に立ち向かい、より思いを高めていく。そんな学習の流れがとても素敵であると思いました。